

令和4年度「真のワーク・ライフ・バランス」の推進について

京都市では、国における働き方改革関連法、女性活躍推進法や育児・介護休業法の改正、コロナ禍での女性に対する影響等の状況を踏まえ、国（労働局）、京都府、経済団体等とも連携しながら、「働き方改革」、「女性活躍推進」、「真のワーク・ライフ・バランス」の「見える化」、不安を抱える女性に寄り添った事業等に取り組んだ。

1 「真のワーク・ライフ・バランス」の「見える化」等の取組

(1) シティリビング連載「しごと・かてい・ちいき 応援企業」

主にオフィス等に配布されるフリーペーパー・シティリビングにおいて、「真のワーク・ライフ・バランス」の推進に取り組む企業や団体に働く人物に焦点を当てて紹介する連載記事を掲載した。

掲載内容

発行時期	取材企業	企業の取組内容
R4. 10/28	(株) ダイムワカイ	建築設計チーム等への積極的な女性登用、ワーク・ライフ・バランスの両立に向けた時短勤務の導入など
11/25	アボワールインターナショナル(株)	乳がん患者のための下着開発、サロン、ヨガ、乳がんの雇用など
12/23	京都エレベータ(株)	チャレンジ10(1年に1度連続10日間の休暇取得)、風通しの良い職場に向けたフリーアドレス制オフィス(座席を指定しない)の導入
R5. 1/27	(一社) ふちでガチ	子育て世代を中心としたコミュニティ活動等
2/24	(学) 大和学園	子の看護・介護休暇等の有給化、時間単位の有休制度の導入等

実施効果・評価

5社を取材。また、掲載枠を拡大(紙面1/4 → 1/2)し、市政情報を掲載。市内のオフィス・地下鉄駅等で各号4万部を配布し、企業の先進的な取組事例の横展開を促進した。

(2) 京都 style「真のワーク・ライフ・バランス」応援WEBの運用

京都 style「真のワーク・ライフ・バランス」応援WEBにおいて、多様な働き方に関する補助金や育休研修などの企業や市民向け情報、働き方改革の取組事例等を紹介した。

また、より多くの市民等の方に同サイトを見ていただけるよう、SNS(フェイスブック及びインスタグラム)において、同サイトの広告を実施した。

実施効果・評価

ホームページへのアクセス数21,087件、SNS広告によるリーチ数160,320件。企業や市民向けの講座や国の制度など幅広い情報を企業・市民に発信した。

(3) 男性を対象とした家事・育児参画講座の実施(5・6月)

京都市男女共同参画センター(ウィングス京都)において、育児への男性の参加を促進することを目的に、社会保険労務士やNPO法人ファザーリングジャパン等により、これから親になる男性等を対象として、男性の育休制度の解説や赤ちゃんのケアや遊び方等による講座を、3日の連続講座により実施した。

実施効果・評価

83名が受講。育休制度の解説や育児休業取得者の体験談等を通じ、参加者の方へ育休のリアルなイメージを促し、参加者からは「お互いに不安や悩みを共有できた」「意見を交換できた」と好評を得た。

2 女性活躍の推進

(1) オール京都での女性活躍推進等

国、京都府、経済団体、労働界等の関係団体と連携したオール京都体制「輝く女性応援京都会議」（平成27年3月発足）を運営主体としてオール京都で様々な取組を推進した。

ア 働き方の幅を広げる 女性対象デジタルスキル基礎講座（全6回、11月～12月）

内容：・講義編（1回） 「女性が働き続けるうえで今、求められるデジタル人材とは」
・実技編（5回） ITに関する基礎知識、ネットショップ作り、スマホカメラ商品写真撮影術、集客・広告SNSマーケティングの基礎知識等

実施効果・評価

会場43名、オンライン104名が参加。受講を通して、ITについての基礎知識の他、宣伝・広報・マーケティング等の仕事の一連の流れに係る基本的な知識や技術、新たな働き方の選択肢について理解を深めることができた。

イ 男性の家事育児参画セミナー「DEI 推進！男性の育休取得を実現する『わが社のマイルール』を作ろう！」（全2回、1月）

内容：① “男性の育休” 推進に必要な DEI の考え方とは？（オンライン講演）
② “男性の育休” を促進する！「わが社のマイルール」を作ろう（ワークショップ）

実施効果・評価

企業の社員を対象とし、計65名が参加。先進的な取組を行う企業や男性ロールモデルを講師に迎えた講座を開催し、男性の家事育児参画について具体的に模索する機会を創出した。

ウ 女子学生向けセミナー「私が自分らしく生きるために選択してきたこと」～キャリアとライフイベント～（同志社女子大、京都光華女子短大、京都光華女子大の3大学で実施、1月～3月）

内容：京都の中小企業との連携により、ロールモデルの女性経営者等による座談会形式のセミナーにより、女性が働き続けることやキャリアについて考える場を提供した。

実施効果・評価

計165名の女子学生が受講。現役の女性経営者から、育児と仕事の両立やキャリア選択などについて経験談や助言、質疑応答などを直接聞く機会を提供したことで、アンケートでは「学校では普段聞けないリアルな声が聞けた」「仕事だけでなく自分自身のことについて考える機会とできた」など満足度の高い意見が多かった。

エ 女性の就業継続支援講座「先輩ママが教える今から始める育休復帰講座」

（全3回連続講座、9月）

内容：産休・育休中の女性を対象に、安心して職場復帰し、主体的にキャリア構築するための講座を実施。

実施効果・評価

11名が受講し、少人数グループでのワークを通して意見交換を行う。受講生が自身と向き合って復職後の生活・キャリアを具体的に考える機会とできた。

(2) 不安を抱える女性に寄り添った相談支援事業の実施

令和3年7月から、ウィングス京都に加え、NPO法人や福祉部局とも連携しながら、新たな相談支援等に取り組んでいる。

ア 相談事業の実施

ウィングス京都に令和3年7月に「つながる相談室」を設置し、有資格者による心理面での寄り添ったサポートを行うとともに、生活困窮者自立相談支援事業、京都市DV相談支援センター等、適切な関係先につなぐ取組を行った。

対 象：京都市内に在住、在学、在勤の女性

受 付：月～土（水曜日・祝日・年末年始は休み）午前10～午後5時
電話・対面・オンライン相談が可能

実施効果・評価

令和4年度相談件数233件（令和3年度は150件）。コロナ禍の孤独感、孤立感を訴える相談が多く、相談の中で相談者の心に寄り添い、不安の原因を少しずつ明らかにし、ともに解決やエンパワメントの方向性を探ることができた。

イ 「つながるスペース（居場所づくり）」（全5回、10月～3月）

専門家（ファシリテーター）の助言と立ち合いのもと、孤独、孤立で不安を抱える女性が、相互に支え合い、社会とのつながりを回復するための居場所づくり事業を、**ひとり親**と**若年世代**に対象を分けて実施。

① 「リフレッシュ！ コットン手芸教室」 **ひとり親**

日々の忙しさを忘れ、ゆったりとしたひと時を過ごすことを目的に、フォトアルバムづくりを行うことでリラックスできる場を提供した。[参加者12名]

② 「出張mama*cafe マネーセミナー」 **ひとり親**

教育費などお金に関する情報から、自営業、在宅ワークなど、それぞれの生活、将来設計に合わせた働き方の情報まで、ファイナンシャルプランナーからのアドバイスを行った。[参加者19名]

③ 「困っていることは何ですか？ お悩み相談会」 **ひとり親**

ひとり親家庭の支援団体にも参加していただき、就業支援や子どもの学習支援などの、ひとり親女性が今知りたい各団体の取組について情報提供を行った。[参加者18名]

④ 「自分を知る、自分らしく彩る。カラーメイクアップワークショップ」 **若年世代**

カラーメイクワークショップや、参加者同士の交流を通じて、新たな自分を知ったり、自分が好きだと思える自分に出会ったりできる場を創出した。[参加者17名]

⑤ 「【展示】身近な若年女性のために～「安心」につながる京都の支援～」 **若年世代**

若年女性の“居場所”をマッピングした京都市内の地図と合わせて、生きづらさを抱える若年女性に向けた支援や相談を行う京都市内の団体を紹介するための展示を行った。

実施効果・評価

「相談先が具体的にわかった」「何よりも対話が大事だと気づいた」「自分の気づくことのできなかった視点や知識を得ることができて良かった」「コロナ禍で大変だった事の話などで、他にも同じ状況の方がいるのを知って良かった」などの感想があり、参加者に必要な情報を届け、同じ悩みを抱える他者との交流によって安心感や新しい視点を得る場を提供できた。

ウ 支援者を対象とした勉強会及び情報交換会（2回、12月・3月）

（ア）ひとり親支援の関係団体の情報交換会

内容：ひとり親支援を行う団体それぞれの活動内容や、いま抱えている悩みを共有することで、今後の活動の中での連携をより強固にすることを目的とした会合を行った。

参加団体：・（一社）京都市ひとり親家庭福祉連合会／京都市ひとり親家庭支援センターゆめあす
・（社福）宏量福祉会／野菊荘こもれび
・京都市ファミリーサポートセンター
・（公財）京都市男女共同参画推進協会／京都市男女共同参画センター

（イ）「女性×アディクションの視点で考える これからの居場所&ともにある支援」

内容：各種の支援団体の参加を得て、若年女性のアディクションにかかわる講演を聞き、その後各団体の活動について共有したのちに、それぞれの意見交換を行った。

実施効果・評価

参加した団体の中には、互いの名前は知っていても、活動内容までは詳しく把握していないことが多く、「改めてお互いのことをよく知る機会になった」「今後は必要に応じて協力体制をとっていきたい」と前向きな評価を受けた一方、互いの連携をするのに情報共有の場の設立が求められるなどの今後に向けての課題も見つけることができた。

エ 不安を抱える女性のための就労支援事業「心としごとの準備セミナー」（全5回、10月～11月）

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、生活や仕事などが大きな影響を受け、孤独・孤立で不安や困難・課題等を抱える女性を対象とし、就業に向けての準備について理解を深めるためのセミナーを、**ひとり親**コースと**若年世代**コースを対象を分けて実施。

内容：① 聴き方を習得してコミュニケーションを円滑に	ひとり親	・ 若年世代
② 体と心を整えて健康に（セルフマネジメント）	ひとり親	・ 若年世代
③ 仕事に役立つ電話対応を学ぶ（就業スキル）	ひとり親	
ビジネスマナーを学ぶ（就業スキル）		若年世代
④ 上手に気持ちを伝えてコミュニケーションを円滑に	ひとり親	・ 若年世代
⑤ 自分自身に目を向けてみよう（マインドフルネス）	ひとり親	・ 若年世代

実施効果・評価

延べ39名が参加。アンケートでは「学びが多かった」「仕事をするに当たり役に立つお話がたくさん聞けた」など、満足度の高さがうかがえる記載が見られた。また、セミナーの後で府が行う就労相談窓口やハローワークについて紹介する時間を設け、出口支援につなぐことができた。